

【別紙】

圃場管理システムの概要について

圃場管理システムは、タブレット端末やクラウド技術を活用して、農作物の栽培環境（EC／pH 値、温度／湿度／日射量等）や生育状況（生育写真、収穫量等）の可視化を実現するだけでなく、遠隔地から農業専門家による農業指導を可能にする農場 ICT ソリューションです。

1. 特長

(1) 圃場情報や指導内容の一元管理

ハウスなどの圃場に設置したセンサーのデータや現地作業員による日々の作業記録、日本からの指導内容などをクラウドサーバーに一元管理することで、時差を意識することなく様々なデータが集約され、圃場環境に合わせた栽培ノウハウとして活用することができます。

(2) 様々な通信環境で導入が可能

インターネット通信ができる環境があれば、様々な地域で導入可能です。また、圃場内にインターネットの通信環境がない場合でも、圃場で収集したデータをタブレットに保存し、インターネットの通信環境が存在する場所からまとめてアップロードして対応することができます。更に、無線対応のセンサーがない場合でも、タブレットへの手入力や USB ケーブル経由でセンサーデータを収集することができます。

(3) 多様な利用ニーズに対応

国境を越えた農業支援だけでなく、圃場内の環境情報を収集・分析のみ利用するケースや、圃場 1 箇所からの管理から複数の圃場の一括管理まで、多様な利用ニーズに対応可能です。

(4) 見やすく使いやすいシステム画面

IT 機器に慣れていない現地作業員でも、マニュアルがなくても簡単に使えるように、ユーザーインターフェースに配慮しました。

2. 導入効果

- ・ 農作物の栽培に課題を持つ国では、遠隔地指導によって他国の栽培ノウハウを取り入れることで、自国では実現できなかった農作物の栽培が可能になります。
また、様々な環境の変化にも対応できる栽培ノウハウを蓄積することで、高品質な農作物を安定して栽培することができます。
- ・ 日本が得意とする商品価値の高い農作物の栽培を、様々な国で実現できます。

3. システム構成例（「インド ICHIGO プロジェクト」より）



以上